

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年												2024年											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 ~1日	12月 ~8日	12月 ~15日	12月 ~22日	12月 ~29日
カンピロバクター	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	50	39	41	50	50	37	10	8	3	10	5
病原性大腸菌	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	76	83	70	86	49	46	11	7	7	1	7
腸管出血性大腸菌	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	6	2	0	1	1	0	0	0	0
サルモネラ	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	8	12	29	13	12	7	0	3	2	1	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	21	11	17	24	5	6	0	3	0	1	0
黄色ブドウ球菌 MRSA	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	10	8	6	21	12	8	3	2	3	3	2
腸炎ビブリオ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	5	1	2	0	0	0	1	0	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

<マイコプラズマ耐性率について>

当センター受託のマイコプラズマ(LAMP法)による集計では、変異によるマクロライド耐性率は53.3%となっております。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第52週(12月23日~12月29日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	12	結核	12		1	2	1	5	1	2	
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2	2							
四類	2	E型肝炎	1		1						
		つつが虫病	1				1				
五類	16	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2						2		
		急性脳炎	5					1	2	2	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1
		侵襲性肺炎球菌感染症	3					3			
		梅毒	3			1	1	1			
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1		1						
		百日咳	1					1			

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町

東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町

北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和6年52週(12月23日～12月29日)

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり59.39人と増加が続いています。この報告数は、1999年の感染症法施行以降で最多となります。また、12月26日に県内全域にインフルエンザ警報が発令されました。咳エチケット、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第52週 A型:483人、B型:0人

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり3.47人の報告があり、前週の約1.9倍に増加しました。手洗いの励行、咳エチケット、換気などの感染予防対策に取り組みましょう。

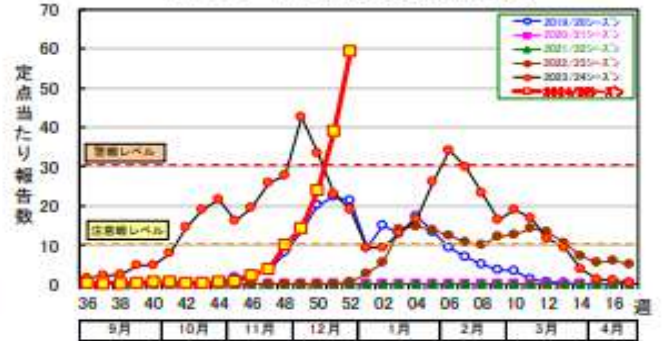
3 感染性胃腸炎

定点当たり6.48人と増加傾向です。手洗いの徹底、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策に努めましょう。

4 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.67人と多い状況が続いています。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策に取り組みましょう。

インフルエンザの流行状況(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	2138	59.39	8.21	▲	小児科	ヘルパンギーナ	-	-	0.24	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	125	3.47		▲		流行性耳下腺炎	1	0.04	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.12		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	8	0.35	1.15			流行性角結膜炎	5	0.63	0.63	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.39	1.40	□	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	149	6.48	5.53	□		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	7	0.30	0.19	▼		マイコプラズマ肺炎	34	5.67	0.03	▶
	手足口病	1	0.04	0.62			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	4	0.17	0.17			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	4	0.17	0.19							

急増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ▲ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい □ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	108	20歳代・推定感染地域: 国外・1人、70歳代・2人、80歳代・2人
4	つつが虫病	1	4	50歳代
5	急性脳炎	1	12	10歳未満
5	侵襲性肺炎球菌感染症	3	17	10歳未満、10歳代、60歳代
5	梅毒	1	161	30歳代
5	百日咳	1	43	30歳代